

カー用品の歩みを見続けて四半世紀。

2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

First issue

Anniversary

歴史がものさし、良品選びの道しるべ

【周年メモリアル企画】

# 歴史リカル用品大全



スポーツカー、ミニバン、ハイエースに  
ベストフィット、  
ユニバーサルデザイン採用の  
エルゴスター、  
新登場!!

自然にフィットするボディーライン、ローポジション、フラット座面、エッジの効いたショルダー、全てをマイルドに仕上げ、心地良さを追求したスポーツモデル、エルゴスター。

## ERGOSTER

¥148,500~¥178,200(税込)

- 高級スウェード調生地(サイド部はPVCレザー、センター部はメッシュ地、グラデーションロゴBEのセンター部は専用生地)
- 全4色(グラデーションロゴBE/ブラックBE/チャコールグレーBE/レッドBE) ●難燃生地 ●シートヒーター搭載モデル有り(12V専用) ●保安基準適合モデル
- 日本製 ●着座センサー搭載(座面部) ※車種によっては、対応できない場合があります。 ●重量:本体/約14.8kg、別売アームレスト1つ/約1.0kg、写真のモデル/約16.8kg(参考数値)

抗菌(除菌・脱臭)対応の安心仕様 車検もOK! SEAT HEATERオプション設定 着座センサー標準装備



写真のモデルは、ERGOSTER-グラデーションロゴBE(E64GSN)+別売アームレスト・ブラックBE (右用:P51AAN、左用:P52AAN)です。

写真のモデルは、ERGOSTER-ブラックBE(E64ASN)+別売アームレスト・ブラックBE (右用:P51AAN、左用:P52AAN)です。

写真のモデルは、ERGOSTER-チャコールグレーBE(E64KSN)+別売アームレスト・チャコールグレーBE (右用:P51KKN、左用:P52KKN)です。

写真のモデルは、ERGOSTER-レッドBE(E64BSN)+別売アームレスト・レッドBE (右用:P51BBN、左用:P52BBN)です。

37th 日刊自動車新聞 大賞  
用品 2024

おかげさまで  
ブリッドのエルゴスターが  
日刊自動車新聞用品大賞2024  
機能用品部門において  
受賞しました。

**B**  
BRIDE SUPER SEAT  
BRIDE CO.,LTD.  
ブリッド株式会社



ブリッド&エディルプ最新カタログ完成。無料で差し上げます!

ブリッド&エディルプ製品の最新カタログを無料で差し上げます。住所・氏名・年齢・電話番号・現在お乗りの車種名・車種型式・雑誌名をご記入のうえ、ハガキにてブリッド株式会社カタログ請求係までお申し込みください。ファクス、ホームページからも請求できますので、どうぞお気軽にお申し込みください。ブリッドの最新情報は、こちら! <http://bride-jp.com>



Memorial PUSH

オールマイティな  
 エルゴスターに  
 2つのタイプが追加

座面クッションは厚みを抑えてポジションが上がりやすく、座面サイド部のサポートが低めなので乗降もしやすく、それでいてスポーティなデザインでハイエースのような車両からスポーツタイプの車両まで、純正から買い替えるシートとしておすすめのエルゴスターに、『タフレーザー』と『キング』の2タイプが追加予定。もちろん車検対応で、秋頃発売予定。

エルゴスター・タフレーザー。レザー仕様ならではの高級感のほか、ファブリックよりホコリが詰まりにくく、なにかをこぼしたりしても簡単に拭き取れる。



エルゴスター・キング。「ドリキン」土屋圭市のイメージカラーやロゴをあしらったモデル。



背面には収納ポケットが設けられていて、薄いものを入れることができる(写真はブリッドのカタログが入っている)。

座面は比較的薄めのクッションでサイドサポートも低く作られている。



エルゴスター・キングには、専用のロゴと土屋圭市氏のイメージカラーである緑のラインが入る。



エルゴスターは『グラデーションロゴ』、『ブラック』、『チャコールグレー』、『レッド』の4色が発売済みだ。



自動車だけでなく、幅広い用途のシートを開発している。Jリーグ・ガンバ大阪のホームスタジアムの選手用ベンチにも使われている。



シートは現在でも1脚ずつ手作りされている。丁寧な作業が品質を支えている。

トラック専用のZAOU(ザオウ)シリーズは、長距離運転や乗降の多いトラックドライバーのために開発された。



GIAS(ガイアス)シリーズでは、リクライニングシートでありながらフルバケットシートに匹敵する剛性、ホールド性を実現した。



そして1995年には日本のメーカーとして初めてFIA公認シートを発売、これによってWRC車両などにも使われるようになった。ブリッドは競技用、ストリート用ともにモデルのラインアップが多い。これは、ホールド性や車両サイズ、ユーザーの体格など、さまざまなニーズに合うものをラインアップしているからだ。また数年ごとに新シリーズが発表されたり、モデルチェンジが行われている。ほぼ毎週、代表の高

瀬氏はモータースポーツの現場に行き、ユーザーの声を聞いている。そうするとまた新たに改善すべき要素が見つかり、進化は止まらないのだという。ブリッドは、そういった競技用シートを基盤としながら、一般ユーザーにもシートを替えるという文化を広めていきたいという。ブリッドは日本人が日本人のために作るシートであり、東洋人の体型、姿勢に徹底的に合わせている。まず身



レースをはじめ、ジムカーナ、ダートトライアルなど様々なモータースポーツに関わって、製品開発につなげている。

体にふれる部分であるシートを替えることで、クルマ、走りは大きく変わる。品質のために手作りこだわりの、大量生産は行わない。そのため納品に時間がかかるケースもある。いっぽうでレーシンググミクや西陣織とのコラボなど、ユニークで付加価値の高いモデルも発売している。価格で勝負するのではなく、製品の性能や魅力そのもので選ばれるように努力を続け、そして実際に選ばれているのだ。

35周年

BRIDE  
 ブリッド

☎ブリッド 052-689-2611  
 https://bride-jp.com

競技用シートとして絶大な信頼を得ているブリッドだが、実はスタートはストリート用シートだった。競技に軸足を置きながらも一般ユーザーへその技術をフィードバックしつづけているブリッドは今年で法人化35周年だ。

車検対応、そしてFIA公認を  
 実現した国産スポーツシート

日本人が作る  
 日本人のためのシート

ご存じのかたからすればBRIDE(ブリッド)といえばかなり競技色の強いブランドだというイメージだろう。実際、日本のシートメーカーとしてモータースポーツにおいて圧倒的なシェアを誇り、最初にFIA公認を取得したブランドでもある。でも意外なことに、1981年の創業後、最初に発売したモデルと、次に発売したモデルはリクライニングシートだった。

自身モータースポーツ経験がなかった創業者の高瀬嶺生氏は、当時まだ国内にライバルがおらず、そのいっぽうで幅広い車種に装着できる汎用品であるシートに着目して製造販売をスタートした。

しかしちょうどラリーやジムカーナが流行しはじめ、競技車両向けのアフターパーツ需要がどんどん増えていった中で、競技の世界でアピールしようと考え、競技用シートを発売し、ジムカーナ、ダートトライアルといった参加型のモータースポーツでシェアを拡大していった。それが手の届

きやすい価格帯だったこともあり、一般ユーザーにも使ってもらえるようになった。

中でも影響が大きかったのは、ッドリキン、土屋圭市選手が使っていたことだ。土屋選手が競技車両や愛車にブリッドのシートを使っていたことで、走り屋に爆発的人気となり、同時に競技でも上位カテゴリで使われるようになっていった。サーキットレースでブリッドが広まったのは土屋氏のおかげだという。



1986年当時の写真。法人化以前で、競技用シートを発売したころだ。



はティーズ)して、今年が法人化35周年となるブリッドだが、1994年にはすべてのシートを車検対応にした。保安基準適合確認書類を国内で初めて運輸支局に持ち込んだのがブリッドだ。これはその後の車検時に必要な書類のひな形になったという。